

# 山行報告書

日時	2017年 12月 22日(金)～24日(日)		天候	晴
山名	八ヶ岳(赤岳・硫黄岳)			
CL	Y永(硫黄岳) T藤(赤岳)	参加者	(硫黄岳)S田、N野 (赤岳)SL:K崎、O保、O崎	
(コース)	(硫黄岳)赤岳鉱泉9:00・・・赤岩の頭11:00・・・硫黄岳12:00・・・赤岳鉱泉14:00 (赤岳) 赤岳鉱泉7:50・・・行者小屋8:30・・・赤岳10:00 10:30・・・赤岳展望荘 11:15・・・行者小屋12:20・・・赤岳鉱泉12:50			
(コメント)	<p>今回初めての冬山山行に参加させていただきました。リーダーはじめ皆さんのエールで最後まで楽しい山行になった事を感謝しています。赤岳鉱泉から赤岩の頭迄アイゼンを装着して緩やかな登りでした。赤岩の頭から山頂迄は風はあるものの快晴のせいか歩きやすい感じでした。大事に持ってきたピッケルも1度だけ出番がありました。直方でのトレーニング山行が体感として覚えていたので、ごちなくも危険回避出来た事が体感として経験できたのが今回の収穫だった気がします、収穫と言えば先輩方の冬装備知識の高さにビックリしました。それに同じ宿泊者の装備や行動も勉強になりました。南八ヶ岳も目に刻み込み山の仲間達と共に楽しい時間を過ごせて本当に楽しかったです。(N野)</p> <p>一年が経つのは早いものでK崎さんとはほんのこの前一緒に登った様な気がする。硫黄岳のルートは赤岳、阿弥陀岳、横岳が間近かに望まれ晴天のお陰で堪能する、ゆっくりと登り頂上付近もあまり風がなく頂上直下の10m位のトラバースでピッケルも使用出来勉強になった、遥かに美ヶ原、霧ヶ峰、浅間山を眺めながら予定より2時間遅れで下山した。夕方より宴会で、売店の日本酒が売り切れて、あんだ達のせいだと言われてしまう始末でした。来年はT藤、O保、K崎さんを実行委員で燕岳の山小屋に行こうかと話が出ていた私もまだ体力が残っていて参加出来たらと思う。(Y永)</p> <p>初日の美濃戸口からなだらかな山道を2時間半程登ると雪が積もっていてアイゼンをつける。そこから急坂となりとたんに足が重くなり空はだんだん暗くなってランプの光で足元を照らす所足の筋肉がパンパンになる。赤岳鉱泉の光が見えやっと着いたと安堵した。17:30分着3時間半の山行はきつかった。夕食時の宴会の最初のビールは特においしく、続く酒でみんな上機嫌で1日が終わった。次の日の硫黄岳はい</p>			

ちまつの不安があったが行ける所までゆっくり行くとCLの言葉で安心して行く事になり9時出発。ガスが立ち込める雪の樹林帯の中を時々休憩をしながら進む。また後から若い登山者に道を譲り、樹林帯を抜けると晴天の中雲になびく横岳・赤岳が見えてきたのでシャッターを夢中で切った。そこから少し登ると急に視界が開け赤岩の頭に着く。そしてがればの途中から20mの強風中背を屈めて登ると硫黄岳山頂に着いた。山頂から雲一つない風景があり赤岳・横岳・天狗岳そして下界の諏訪湖まで見え最高の1日でした。(S田)

一年経つのが早く東京からK崎さんも合流して楽しみにしていた赤岳に登ってきました。昨年登ったもののやはり急傾斜の登りはきつくハアハア言いながら一步一步登って行きました。ガスっていましたが、頂上に着くと視界が広がり、去年は見えなかった美しい富士山の姿に感嘆し、絶景を楽しむことができました。参加されたみなさんお世話になりました。今年は参加者が増えて楽しい山行になりました。来年もまた楽しみにしています。(O保)

今年も恒例の八ヶ岳に行ってきました、赤岳組の3人が昨年登頂しているので安心して登れました。雪が少なく残念でしたが天候に恵まれて良かったです。久しぶりのK崎さんにも会えて、また来年もご一緒したいですね。(T藤)

今年は気温も暖かく風もそんなに強くなかったので快適に登れました。登りは文三郎尾根から登ったのですが頂上手前では雪が無い岩をよじ登る所があるのですが、切れ落ちてかなり怖かった。昨年も赤岳に登ったのですが頂上はガスって何も見えなかったが、今年は晴れてて頂上から富士山がバッチリ見えて最高でした。下りは地藏尾根から下り昼過ぎには赤岳鉱泉に着き、美味しいカレーとビールで乾杯！！その後、赤岳鉱泉名物のアイスキャンデーでアイスクライミングまで体験でき大満足でした。皆さんお世話になりました。(O崎)

費用概算

(交通費/人)約40,000円  
(その他/人)約25,000円 宿泊費2泊、往復タクシー、風呂